



大正の昔からの癒しどころ



名湯が多い愛媛県にあつて、古くから湯治客で賑わっているのが、溪流と深山に抱かれるようにたたずむ小藪温泉。木造三階建ての本館は、大正中頃に完成したといわれており、国の登録有形文化財に登録されている。入母屋造りで棧瓦葺き、回廊が巡らされた堂々たる建物は、2階に玄関や大広間の休憩室がある。1階には食堂と昔懐かしい囲炉裏の間があり、自在鉤に吊るした鍋や炭火で焼いた川魚を味わうことができる。湯殿のある建物は昭和に建てられたものだが、こちらも風情満点。

小藪温泉



文明開化の香りを漂わせる



幕末より、大洲では養蚕や製糸業が盛んになった。そのため明治の半ばには、金融機関の整備が急務の課題となった。そこで明治29年（1896）、人々の要請を受けて設立されたのが大洲商業銀行だ。開業時には民家にその役割を担わせていたのだが、業務の隆盛にあわせて明治34年に擬洋風の建物を新築した。この建物は、イギリス積み煉瓦構造でありながら屋根は寄せ棟という和洋折衷の造りが特徴。現在はおおず赤煉瓦館として観光情報の発信やギャラリー、休憩スペースとして活用されている。

おおず赤煉瓦館